

令和2年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
研究成果等概要報告書

研究テーマ名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な確保のための国際市場に関する研究」
政策研連携研究課題名	安定的な穀物等の調達に向けた企業行動と国際需給に関する研究
研究実施期間（西暦）	2020年度～2022年度（3年間）
P0	主任研究官 林 瑞穂

1 研究の進捗状況等

南米地域における日系商社の穀物等の調達・投資戦略の把握とともに、我が国の穀物を輸入している実需企業の安定的な原料調達に向けた企業動向調査に取り組む。コロナ禍により現地調査に制約があるため、文献整理のほか、Web 会議システムや e-mail を活用した聴取を主体に研究を推進した。詳細は以下のとおり。

① 穀物調達戦略および投資戦略に関する分析

南米に穀物調達のために進出する JA 全農の事業戦略について、2020 年 7 月 5 日開催の日本農業市場学会大会における個別報告として「全国農業協同組合連合会（JA 全農）の油糧種子・穀物調達に係る輸入戦略―ブラジルにおける事業展開を事例に―」を発表するほか、同学会誌に論文を投稿、現在二回目の査読プロセス中。

また、ブラジルにおける穀物調達を実施するために理解が必要と考えられる同国の大豆バリューチェーンの現状について、政府研究機関、農業コンサルタント、生産企業等の計 5 組織から聴取を実施。聴取内容については、日本農業市場学会の学会誌に「ブラジル大豆バリューチェーンにおける生産者および集荷事業者の主体間関係の動態―大豆生産者の能力向上（Upgrading）がもたらす影響―」というタイトルで論文を投稿中。

② 日系食用油メーカーの事業戦略や穀物輸入戦略の分析

我が国の穀物を輸入している実需企業である食用油メーカーの動向について、月刊「油脂」や「食品マーケティング便覧」等の文献で情報を収集するほか、輸入植物油の流通参入を分析する枠組みとして新制度派経済学を用いた流通チャネル論等について精査を実施中。

③ 世界の食料需給見通しや食料需給動向の分析への活用

所内で取り組む食料需給分析においては、本研究課題に関する定性的な情報を適宜提供し、知見の共有を図っている。